

どのような状態なら救急車を呼ぶ？

「いつもと違って体調がすぐれない」そんな時は病院で診察を受けますよね。では「どのような状態なら救急車を呼びますか？」救急車の適切な利用が推奨されていますが、やはり我慢の限界もあります。ですからここで「救急車を呼ぶときの目安」を考えてみましょう。



消防庁は、「以下のような症状がみられたら、**重大な病気や**

けがの可能性があるので、119 番に連絡を」と紹介しています。



手足	<input type="checkbox"/> 突然のしびれ	<input type="checkbox"/> 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる
胸や背中	<input type="checkbox"/> 突然の激痛 <input type="checkbox"/> 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く	<input type="checkbox"/> 急な息切れ、呼吸困難 <input type="checkbox"/> 痛む場所が移動する
顔	<input type="checkbox"/> 顔半分が動きにくい、あるいはしびれる <input type="checkbox"/> ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ <input type="checkbox"/> ろれつがまわりにくい、うまく話せない	<input type="checkbox"/> 視野がかける <input type="checkbox"/> 物が突然二重に見える <input type="checkbox"/> 顔色が明らかに悪い
腹部	<input type="checkbox"/> 突然の激しい腹痛 <input type="checkbox"/> 吐血や下血がある	<input type="checkbox"/> 持続する激しい腹痛
頭	<input type="checkbox"/> 突然の激しい頭痛 <input type="checkbox"/> 支えなしで立てないぐらい急にふらつく	<input type="checkbox"/> 突然の高熱
意識の障害	<input type="checkbox"/> 意識がない（返事がない）、おかしい（もうろうとしている） <input type="checkbox"/> ぐったりしている	
けいれん	<input type="checkbox"/> けいれんが止まらない <input type="checkbox"/> けいれんが止まっても、意識がもどらない	
怪我、やけど	<input type="checkbox"/> 大量の出血を伴う外傷	<input type="checkbox"/> 広範囲のやけど
吐き気	<input type="checkbox"/> 冷や汗を伴うような強い吐き気	
飲み込み	<input type="checkbox"/> 食べ物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい <input type="checkbox"/> 変なものを飲み込んで、意識がない	
事故	<input type="checkbox"/> 交通事故にあった（強い衝撃を受けた） <input type="checkbox"/> 水におぼれている <input type="checkbox"/> 高所から転落	
その他	・いつもと違う場合、様子がおかしい場合	



救急車を呼ぶと、「**救急車に来て欲しい場所、具合の悪い人の年齢、症状(呼吸器状態など)を、いつからなのか**」などを尋ねられるので、答えられるようにしておきましょう。

(以上、H23.3 消防庁 救急車利用マニュアルより抜粋)